

1/17 (金) 1/23 (木)

真室山町小中学校 書き初め展

開場時間 午前9時から午後9時 ※23日は午後3時終了
会場 真室川町中央公民館 研修室1・2

5

郷土の英傑 鮭延秀綱物語



五、秀綱、鮭延城入場と武藤義氏自刃

武藤氏が秀綱を鮭延郷にすぐに返さなかった理由として三つある。秀綱が若年とはいえ聡明な資質を持っていると見抜いたこと。自らも人質でなく小姓として面倒を見てきたこと。そして将来、最上との対決を考えると、秀綱を鮭延郷に置くことによって庄内の利益になるといったこと。

よって武藤氏は秀綱が二十一歳になるまで、小姓として現鶴岡市大山尾浦に置き、天正十(一五八二)年の冬に鮭延城にかえし、大山の城代と秀綱を入れ替えた。

武藤義氏は強引な戦略を得意としたため、家臣が不信を募らせ、天正十一(一五八三)年一月、家老前森蔵人の裏切りにあい、自刃した。

秀綱は義氏に正月礼(新年の挨拶)に行き、義氏に「せつかくだからゆつくりしていけ」といわれ、その反逆・自刃の一部始終を見ることになった。

前森は、義氏に「雪も消えやし(秋田の)由利の陣に立つべきだ」と進言し、行くと見せかけて軍勢をとって返し、義氏を自刃させた。その時、秀綱はまだ戦陣に立ったこともなかったが、羽黒山の僧兵の首を取り義氏に見せ



秀綱が真室川から古河に持って行ったとされる観音像(鮭延寺所蔵)

るなど、義氏に認められたいという一心で前森の軍と対峙した。また、義氏が自害したら、自分も後を追うという気概も見せた。秀綱は義氏に庇護されていたせいか、前森蔵人や庄内家臣団の空気を読めずに行ったことも事実である。

しかし、小姓時代に世話をしてくれた庄内(前森蔵人方)の侍である中村内記、弟孫八郎兄弟は蔵人に「忠義で義氏の最期と共にすると覚悟したのはもっともなことで義理堅い方だ。これからは疎略に扱うべきでない。」と進言した。秀綱は助かり庄内武藤氏の一大転機を見て鮭延城に帰った。

庄内は義氏の自刃で、その後は何もおこらず治まった。前森は屋形になれたが、丸岡兵庫(義氏の弟、義興)を屋形に置き、自らは東禅寺(現酒田市)を治め、東禅寺筑前と名乗った。(真室川町歴史研究会)

表紙の紹介

「あさひ小教育の日」開催

11月24日(日)、真室川あさひ小学校(校長：高橋正彦)で「あさひ小教育の日」が開催されました。教育の日は、「学校が児童にとってより充実した学び場になるよう、保護者や地域の皆さんと共に考える日になりたい」という思いから設定された日で、今年で2回目の開催となりました。当日は、公開授業や全校合唱、佐藤栄起氏(舟形ほほえみ保育園園長)による講演などが行われました。

